

学校法人名古屋電気学園 愛知工業大学名電高等学校同窓会



同窓会だより

発行所 愛知工業大学名電高等学校同窓会
〒464-854 名古屋市千種区若水3-2-12
TEL (052) 721-0311 (代表)

学園同窓会「エレキ」引き継ぎ発刊

愛知工業大学名電高等学校同窓会は、廃刊となった名古屋電気学園同窓会報「エレキ」を引き継ぎ、新しく「学校法人名古屋電気学園 愛知工業大学名電高等学校同窓会だより」を発刊することになりました。今後、学園、母校を結ぶ太い絆として同窓会はじめ学園、母校を中心に様々なニュースをきめ細かく同窓会員、在校生にお伝えしていきます。また、二年後に迎える経営母体の名古屋電気学園創立百周年の記念事業の内容、進捗等もお知らせします。

母校への熱い思い大事に



名古屋電気学園理事
長・愛工大名電高同窓
会名誉会長 後藤淳

創立者の後藤喬三郎先生によって一九一二年(大正元年)に創立された「名古屋電気学校」に始まる名古屋電気学園は、間もなく歴史ある百年を迎えます。学園の歴史は、その時々の時にいた人たちが、一生懸命、学園発展のため努力してきた「積み重ね」によるものであります。その中には、勉強していた人もいれば、(教職員として)働いていた人たちもいます。それが、みんな母校を思う心をもつて、ここまで学園を発展させてきた、と思います。

若い時は仕事優先で、なかなか母校まで気持ちがいけない、と思います。私自身、学園に入ってから先代の後藤鉦二先生が亡くなり、学園理事長、大学学長として東奔西走していたこともあり、周りをなかなか余裕をもって見るということも、まいりませんでした。

同窓会員の皆さんも仕事や生活で落ち着いたら、学園と共に生きてきたことを思い出してほしい。皆さんの母校に対する一つ一つの思いがあつて、学園も百年という大きな「節目」を迎えることが出来たと言えます。

これからも、学園の発展のため、同窓会、卒業生の皆さんが、「母校」を思う心強く持ち続け、学園に対する変わらぬご支援、ご協力をお願いします。

会報の題字は、後藤淳理事長に書いていただきました。

絆を深めるきっかけに



愛工大名電高同窓
会会長 加藤訓

このたび学園のご協力により懸案でありました「同窓会だより」を発刊できましたことは、心より喜びとするとところであります。

母校名電高は一九一二年(大正元年)に創設され、旧制中学校の八千三百人を加え、本年三月時点で五万四千人余の卒業生を数えるまでになりました。卒業生の中には親子二代、三代の名電ファミリーも珍しくありません。

母校は二年後に創立百周年を迎えますが、この間、戦争を始め様々な困難を乗り越え、今日の総合学園として発展してきたことは、歴代理事長を中心に学園教

職員皆さまのご尽力の賜にほかなりません。

同窓生には、大リーグのスーパースター・イチロー選手はじめ、多くの人たちが各分野で活躍し、社会の発展に寄与しています。百年に及ぶ歴史は長く、校訓の「誠実」「勤勉」という先輩諸氏から脈々と受け継がれた伝統は、現在の在校生にもしっかりと受け継がれています。母校の様々な動き、同窓クラス会やクラブOB会の活動状況などを「同窓会だより」でお伝えし、母校と同窓会員の絆が深まれば幸いです。なお、学園創立百周年記念事業については現在、実行委員会検討中です。皆さまのご協力、よろしくお願ひします。

少子化で生徒が減少する中、母校、愛工大名電高校の発展と会員皆さまのご健勝を願ひ、発刊の挨拶いたします。

同窓会の充実を期待



愛工大名電高校校長・愛工大附属中学校校長 佐藤忍

同窓会員の皆さまには、ますますご健勝で、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

一九一二年に愛知工業大学名電高等学校の前身である名古屋電気学講習所が設立されて以来、本学園も間もなく百周年を迎えようとしております。中部地区はもとより、全国で産業界の中心的な存在として活躍しておられる同窓生も数多く同窓会がさらに充実、発展されるのが、期待されています。

その中で、同窓会報が復刊されることは大変意義深く、今後の同窓会活動にも大いに寄与するものと期待しています。

さて、愛知工業大学名電高等学校では、平成十九年に専門学科を科学技術科と情報科学科へ改編、現在の普通科(中高一貫コース、特選・選抜コース、文理コ

ース、スポーツコース)と合わせ約千五百人余の生徒が勉学・部活動に励んでおります。また、硬式野球・卓球・バスバンドなど部活動における成果のみならず、90%以上の生徒が大学へ進学するという進学実績の面でも、高い評価を受けてきました。これも諸先輩方、同窓会会員の皆様方のおかげとご理解とご支援がありがとうございます。これからも愛工大名電をよろしく願います。

情報共有のツールに



愛工大名電高校PTA会長 星野孝一

愛知工業大学名電高等学校同窓会の同窓会報「同窓会だより」が、復刊第一号を迎えられたことに対し、誠にありがとうございます。

愛知工業大学名電高等学校PTA会長に就任したこの年に、記念すべき復刊。

同窓会だより

愛知工業大学名電高等学校同窓会の活動、理解を深めたいと、在校生の皆さんを通して、お祝いいたします。

私も本校普通科卒業生で、同窓会員です。何か因縁めいたものを感じています。歴史と伝統のある本校は二年後の平成二十四年十一月で、創立百周年を迎えます。会員相互の情報共有に役立つ、ツールとなることでしよう。また、ネットワークを構築するうえで無くてはならない会報紙になることを期待しています。編集スタッフの皆さん、頑張ってください。

百周年実行委員会を充足

学校法人名古屋電気学園は、平成二十四年に学園創立一世紀もの長い歩みを経て、記念すべき百周年を迎えます。

同窓会は、誇りある学園にふさわしい百周年を迎えるにあたり「百周年実行委員会」を発足させました。四月から愛工大附属中学校校長を兼任の佐藤忍愛工大名電高校校長の力添えを得て、本年三月二十四日に第一回実行委員会を名電高校内で開き、各議題等を協議したのを皮切りに、本格的な活動を始めました。歴史ある学園の将来を見据え、先人らが築かれた伝統を大切に、栄ある百周年を迎えることができるように、委員一丸となり、努めさせていただきます。皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



同窓会は、誇りある学園にふさわしい百周年を迎えるにあたり「百周年実行委員会」を発足させました。四月から愛工大附属中学校校長を兼任の佐藤忍愛工大名電高校校長の力添えを得て、本年三月二十四日に第一回実行委員会を名電高校内で開き、各議題等を協議したのを皮切りに、本格的な活動を始めました。歴史ある学園の将来を見据え、先人らが築かれた伝統を大切に、栄ある百周年を迎えることができるように、委員一丸となり、努めさせていただきます。皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

力をお願いいたします。

百周年実行委員会は次の皆さんです。(敬称略)

【百周年アドバイザー】

野牧 一雄 (名誉理事) 加藤 訓 (会長)

【委員長】

葛谷 捷臣 (副会長) 長尾 楯夫 (監事)

【副委員長代行】 近藤 春彦 (理事)

【委員】

羽佐田修二 (理事) 道木 峰男 (理事)

安島 将門 (理事) 永井 広明 (理事)

東 伸二 (理事) 松永 成美 (理事)

柏 太輔 (理事) 【事務局長】 平田 俊之 (理事)

【事務局】

竹松 宏 (事務局) 【会計】 三宅 覚 (理事)

前田 賢 (理事)

【写真は、百周年実行委員会の皆さん。手前左が葛谷委員長(名電高)で、

平成21年度総会開催

同窓会新役員の皆さん (敬称略)



同窓会
は5月28日、
名古屋市
内のホテル
で平成
21年度総
会を開催
し、**会長
に加藤訓氏**
を再選、**野牧一雄氏**
を**名誉理事**
に選出しました。

総会には、理事ら45人が出席。
平成21年度事業報告、予算及び平
成22年度事業計画案、予算案を原
案通り承認。また、任期(2年)満
了に伴う役員改選で、会長の加藤
氏ほか新役員を選出しました。再
選された加藤会長は、「少子化な
ど私学経営は厳しい状況にあり、
同窓会はその役割をしっかりと担
って、母校のさらなる発展を図っ
ていきたい」と、抱
負を述べました。



名誉理事に
選任された
野牧一雄氏

また、名誉会長の
後藤淳理事長が「広
報活動にも力を入れ、同窓会はじめ学園、高校等の様々な情報が会員に伝わり、結び付き
を深めていくことが大事です」と挨拶、また、4月から愛工大附属中学校長兼任となった
佐藤忍校長が「公立校の無償化など私立を取り巻く状況は厳しいが、中学・高校の各長所
をうまくかみ合わせて素晴らしい学校づくりに努めたい」と話しました。

【写真上は、同窓会総会で挨拶する名誉会長の後藤淳理事長。右端は佐藤校長】

役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年
名誉会長	後藤 淳		監事(兼)	三宅 覚	S50
名誉理事	野牧 一雄	S27		松本 和彦	S50
会長	加藤 訓	S35		磯貝喜与二	S51
副会長	渡辺 静夫	S29		宇田 秀樹	S51
	池尾 勇夫	S33		永井 広明	S51
	山下 将	S33		梅村 憲正	S52
	北野 芳憲	S34		杉浦 克敏	S52
	奥村 衛	S35		東 伸二	S52
	葛谷 捷臣	S38		石崎 敏也	S54
理事	古田 和義	S20		松永 成美	S56
	本田 義輝	S27		増田 朗	S56
	松浦 兵征	S35		川端誠一郎	S56
	堀江 充	S37		森島 茂樹	S56
	羽佐田修二	S37		松澤 和史	S57
	高田 宣章	S38		橋本 明正	S60
	長尾 楯夫	S38		岡本 芳樹	S61
	今津 孝	S39		矢野 好徳	S63
	丹羽 宗彦	S40		柏 太輔	H4
	森田 千明	S40		中山 智明	H7
	更谷 光夫	S41	前田 賢	H9	
	樋田 嘉成	S41	近藤 孝芳	H13	
	道木 峰男	S42	事務局長(兼)	長尾 楯夫	
	山下 健次	S42		更谷 光夫	
	本多 正二	S43	事務職員	平田 俊之	
	平田 俊之	S46		竹松 宏	
	近藤 春彦	S47	会計(兼)	三宅 覚	
安島 将門	S50	前田 賢			



OB・OG便り
(敬称略)

陸上競技部

関わりました。
当時の陸上部は砂田橋
の河川敷での練習で、時
々、OBの石原先生に指
導を仰ぎ、強くな
なっていたのを
覚えています。
その甲斐あって
名電陸上競技部初
のI・H出場を果
たし、その後、全国優勝
者を多数出しましたが、
全国駅伝の優勝がなく、
この夢を後輩諸君、かな
えてください。
(山下健次・S42卒)



私は名電
に入学し、
本格的に陸
上競技部に

野球部

夏の甲子園が七月十日
から始まりました。
三年ぶりの甲子園
出場に向けて選手一
同練習に励んでいま
す。七月三日にOB
による激励会を開きまし
た。
(杉浦克敏・S52卒)

吹奏楽部

OB総数は千五百人を
超え、全国大会出場
最多を誇ります。
当部は、来る学園
百周年には現役生と
共に記念公演をした
いと今から楽しみに
しています。
(永井広明・S51卒)

ウエイトリフティング部

十六人の部員で活
動しており、高橋力
監督の下、横田直也
主将を中心に、八月
に沖縄で開催される
インターハイに向け
て、日々練習に励ん
でいます。
(安島将門・S50卒)

卓球部

名古屋電気学園創立百
周年の節目を前に、卓球
部は過去の伝統に恥
じることなく、完全
復活を全国優勝で飾
るために努力してい
ます。
応援よろしく願ひし
ます。
(増田朗・S56卒)

(OB・OG便りは七月上旬に届いた原稿を基に作成しました。)

学園創立90周年（2002年11月）の記念事業として2001年8月に愛工大名電高校の新しい北校舎が完成、高校のイメージを一新しました。校舎以外に校名、学科及び教育内容等がどのように変わってきたのか、学科紹介等を通して、その一端を報告します。

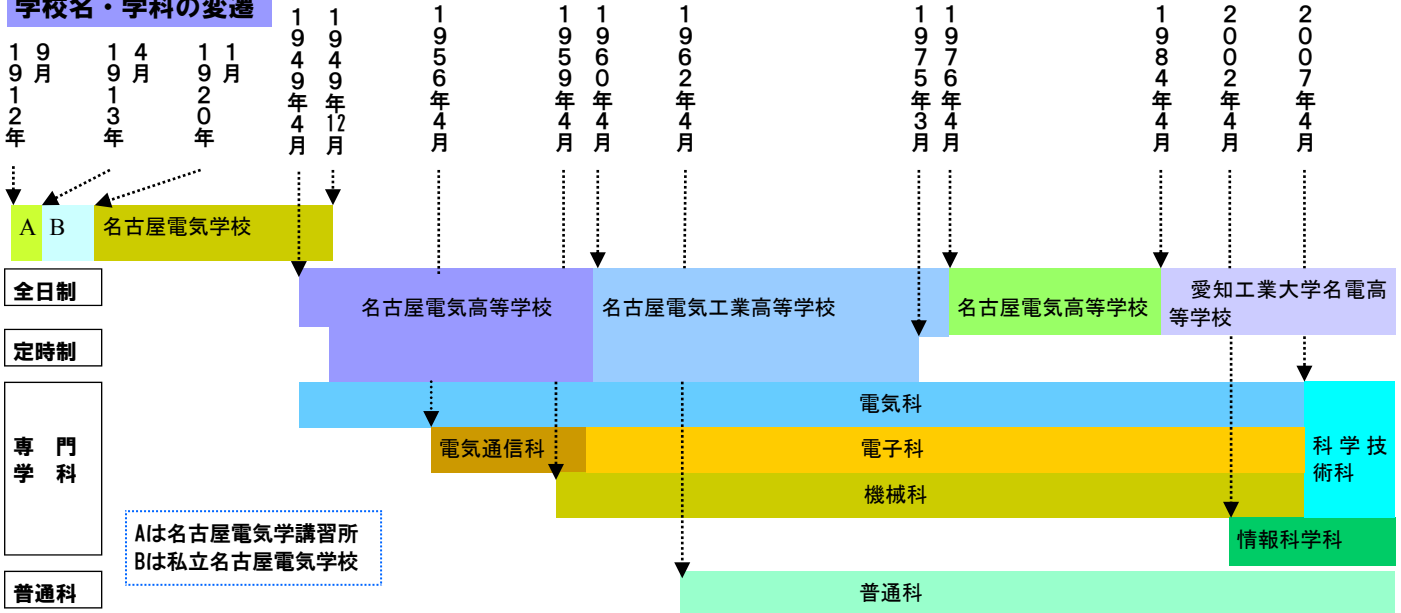


空から見た現在の北校舎（六階建て東館、四階建て西館で構成）



学園創立九十周年を機に一新

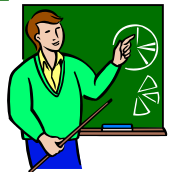
学校名・学科の変遷



先生は、専任二十人、講師七人、技術員四人の合計三十五人で、教科指導にあたっては、写真

学年毎の内訳は一年生が四クラス、百四十二人、二年生が五クラス、百七十九人、三年生が六クラス、二百三人で、合計五百二十四人の生徒が学んでいます。

創立以来、名電と言えば、電気科・電子科・機械科と親しまれ、長きにわたって続いてきました。平成十四年に情報科学科の新設と同時に、男女共学、平成十九年に工業科を廃止し科学技術科と改編。専門学科は、情報科学科と科学技術科の二学科となりました。



専門学科



科学技術科の授業風景

前ページ左下。

最近、専門学科へ入学してくる生徒は、クラブ活動への参加意欲が高いことはもちろんですが、「資格が取りたい」「ロボット製作をしたい」「思考機械を製作したい」とか、「コンピュータを学びたい」と、IT教育に特化した五百台ものコンピュータを有する本校を希望する生徒も、多くなりました。また、ものづくり産業の盛んなこの愛知で、国が目指す「科学技術創造立国」に呼応、分子科学・情報科学・環境科学・脳科学等の新しい領域が増え、いろいろな人材が求められています。

そこで、高校三カ年の教育では不十分となり、高校三カ年と愛知工業大学四カ年の合計七年間をかけて、技術者を一貫して育成することにしました。高校では、数学と物理の

基礎教科に重点を置き、さらに一年生より先端の科学技術を学ぶために、一流企業の協力を得て、宇宙研究開発機構から「ロケットの開発現場から」、IBMから「ユビキタスネットワーク社会」等を。愛知工業大学からは「知能ロボットについて」「水の硬度」「スポーツと眼」など十四回、年間二十五回程度の講義を行っています。

さらに総合的な学習の時間を利用し、九代目玉屋庄兵衛氏のカラクリ人形、信州大学教授の遠藤守信氏のナノテクノロジーの講演会等も実施しています。

生徒が、早いうちから工学、科学技術の最先端に触れることにより、興味を持った工学を見つめることで大学への正しい進路選択の手伝いをしています。なお**専門学科入学生は希望すれば、併設の愛知工業大学へ全員が入学出来るシステムがあります。**

生徒が最新のサイエンスやテクノロジーに出会うことよって「向学心」に燃えるお手伝いが出来ればと願っています。

(文責・杉浦由直主幹)

普通科

普通科は一九六二年(昭和三十七年)四月に設置され、一九六九年(昭和四十四年)四月に本校普通科に初めて女子八人が入学して

男女共学になって五十年近くになります。

現在、一年生四百二十八人(うち女子百二十人)、

二年生四百四十二人(同百六十五人)、

三年生四百三十七人(同百五十一人)。

各十二クラス、計千三百七

人(同四百三十六人)が**特進・選抜・理系**・



文系・スポーツのコースで目的や希望に合わせ進学を目指しています。特進コースは国立・公立・難

関私立大学を目指し、授業は特別なカリキュラムが組まれています。目的達成のために日々の学習指導はもちろん、夏期・冬期の進学補習もあります。

選抜コースは特進コースと同じように国公立大・難関私立大学を目指す。部活動にも参加できるカリキュラムで学習しています。普通コースは文系大学進学希望者や愛工大など理系大学への受験を考えている生徒たちのコースです。

スポーツコースはスポーツに自信があり、全国レベルの実力があるクラブで技術を磨き、スポーツ推薦のある大学や企業に進みたいという生徒向けのコースで、プロのインストラクターが実施するエアロビクスなど他コースとは異なったユニ



特進コースの授業風景

ークな授業があり、楽しみながら学べるようになっていきます。

本校普通科は、国立大、南山、早稲田、上智など難関私立大学合格者が続々。きめ細かな進路指導を行い、全国から講師を選りすぐり特進・選抜コースを中心に**希望者に「校内予備校」**を開講しています。(文責・澤田勉教諭)

華やか学校行事



男女共学で学校行事も大きく様変わり。体育祭は、かつての男子高の面影を残していますが、学校祭は華やかで明るい歓声がいっぱいです。(昨年撮影)

(7) 平成22年9月1日



野球部

本校クラブは、イチロー選手らプロで活躍する幾多のOB、OGを輩出している全国レベルのクラブといえます。その実力派が目白押しクラブを順次、紹介していきます。



甲子園出場は、昭和の時代は三年に一度のペースでだったのが、平成に入ってからコロンスタントになり

甲子園常連校の仲間入りしました。二〇〇四年春の選抜で準優勝、翌年春には創部五十年目にして本校初の全国優勝をしました。また、この時期には堂上兄弟らを擁し、六年連続で甲子園に出場。今、彼らは中日ドラゴンズで将来、チームを背負うスター候補として気炎万丈、頑張っています。ここ二年間は甲子園から遠ざかっているものの、チームには底力があり、選手の実



卓球部

力も備わってきている。今夏の第92回選手権愛知県大会では、今一歩力及ばずでした。今後チーム一丸となって闘志を燃やしていきます。



創部八十二年目を迎えました。日々努力はしていますが、こうした活動も変わら

続けてくださる、理事長先生はじめ名古屋電気学園、学園卓球部後援会の皆さまのおかげだ、と思っています。現在、卓球部は十四人が在籍し、全員が寝食を共にし、日本一を目指しています。昨年はその成果もあり、全国選抜では四年連続、インターハイでは十四年ぶりに決勝の舞台に立つことができました。あと二年で、学園創立百周年を迎えます。恩返しをするべく、もう一つ階段を上り、日本一になれるよう努力していきます。



相撲部



当時の後藤鉦二理事長の肝いりで一九六一年(昭和

三十六年)二月、相撲部が誕生。来年、二〇一一年(平成二十三年)に創部五十年を迎えます。

その間、全国高校総体(インターハイ)団体二十六年連続出場(三十回目)し、準優勝三回、3位四回の輝かしい成績を挙げました。最近の成績は、平成十九年が5位、二十年が団体3位、二十一年が団体準優勝、そして平成二十年には本校から「第八十六代高校横綱」が誕生しました。現在、高校生部員が男子十一人、女子二人、それに附属中学校四人の合わせて十七人で活動。相撲場は、瑞若体育センター小体育館に移設、全員、自宅通学生徒で稽古に励んでいます。本校相撲部から、若松親方(名電―近畿大―高砂部屋・元幕内朝乃若)、関ノ戸丈喜親方(名電―明治大―武蔵川屋・元幕内武雄山)、幕下力士井上康政(名電―東洋大―北ノ湖部屋)が、相撲界で活躍しています。

【写真は、平成二十二年三



吹奏楽部

月に卒業、日本体育大に進学した高校横綱の吉田圭佑君」



創部五十年を超える部活動です。故松井郁夫先生が築き上げてくださった「全国強豪」の名に恥じ

ないよう「全日本吹奏楽コンクール」への出場最多記録を今も更新し続けております。部は今では百六十人を超える巨大バンドとなりました。大世帯の中で、私は、「絆で奏でるメンタルハーモニー」を具体化させる活動を日々行っています。コンクールへの出場や年二回のコンサートの他にも、敬老会等の地域行事での招待演奏、刑務所慰問コンサート等の慈善事業、他校との交流コンサート等、音楽を通じた様々な方面への活動に積極的に参加しています。また、今年七月にシンガポールへ演奏旅行に行きました。これは五年前から、二年に一度行っている交流事業です。現地ではメリディア



情報デザイン部

ン高校と三日間一緒に練習やコンサートをしたり、一緒に街を散策して交流を深めることにより、子供たちは生きた英語と国際感覚を体験し、言葉を超えた絆を結ぶことの喜びを味わっています。そして、普段の練習では私は、部員同士で起こる問題にも積極的に深く関わっています。それにより、子供たちの心の繋がりがより強くなります。長い人生の中でもなかなか味わうことの出来ない「メンタルハーモニー」によって生じる、奏者と観客が一体となる心からの喜びを、子供たちは体験します。

「デザイン・2D・3D・Web・研究」の5つを柱とし活動しています。Photoshop・Illustrator・Shade・Flash・Dreamweaver等、多彩なアプリケーションを使用し、アイデアを出し合い、コンセプトを考え、作品を制作しています。コンピュータを使って人を幸せにすることはできないだろうか? その答えを探すために、様々な取り組みをしています。

工コースや中高一貫クラスの普通科三年生を対象にした特別講義、体験学習等の



3月13日、八草キャンパスでの調印式で、協定書等に調印する後藤泰之学長と桜井正一校長（当時、写真㊸）

交流協定は、それまで両大高間で取り組んできた理

2007年（平成19年）

愛知工業大学と「教育交流協定書」調印

【3月】学園設置校の愛知工業大学との間で、様々な教育交流を通して連携を深めようと「教育交流協定」を結びまし



思い出のアルバム



調印式後に後藤淳理事長（前列右から5人目）と記念写真に収まる両校関係者ら

2009年（平成21年）

南京市第九中学と友好交流協定を結ぶ

【7月】中国・東南大付属校の南京市第九中学（南京市）と、交流提携協議書

教育交流をさらに深め、高大連携をより強化しよう、という目的です。具体的には、「特別講義」受講生が大学へ進学すると、専門教育科目（選択）の二単位を履修済みとして認定されます。このほか、専門学科の一年生を対象とした「先端科学技術入門」の講義等があります。

各設置校環境、次々と進化



2010年4月 大学・自由ヶ丘キャンパス



2009年4月 附属中学校校舎

学園設置校の愛知工業大学が一九八〇年（昭和五十五年）に東南大と姉妹校になったのを機に、第九中学と五年前から交流を続けています。協議書では従来、進めてきた隔年ごとによる両校代表生徒の相互訪問を明文化し、親善交流の一層の促進を目指します。調印式は七月二十二日、訪問団を率いて来日中の劉強副校長を招いて高校で行われました。後藤淳理事長、後藤泰之学長ら両校教職員、生徒の見守る中、劉副校長と佐藤忍校長が、協議書に署名しました。



編集ノート

同窓会会報を創ろうということになり、会報の顔である「題字」も「同窓会だより」に決定。紙面製作も同窓会、高校側の全面協力を得て、順調に推移。と格好良く書きましたが、編集メンバーは、それぞれ仕事を抱えての“二足のわらじ”だけに、当初、見込んだタイムスケジュール通りとはいかず、ようやく発刊にこぎつけました。印刷を除き、紙面は手づくりです。お見苦しい点も多いと思いますがご容赦ください。【久】▽名古屋電気学園創設100周年を迎えるにあたり、「同窓会だより」を学園の全面的な協力を得て、実行委員会で話し合いを重ね、ようやく発行にこぎつけました。発行にあたり関係の皆さまに、原稿をお願いしたところ、多忙の中、快く応じていただいたことについて、心からお礼申し上げます。この作業に携わり、同窓の皆さんの絆の強さを改めて痛感、発行に至るまでの苦労が報われた思いで、いっぱいです。「同窓会だより」により、同窓会と会員、会員相互の情報連絡が一層密となり、交流が一層深まりますことを願ってやみません。【葛】



2010年9月 大学・八草キャンパス1号館

同窓会の皆さまへ

学園は、二年後の二〇一二年（平成二十四年）に創立百周年という記念すべき年を迎えます。学園では現在、式典を含む百周年記念事業の準備を進めております。就きましては、前回の学園創立九十周年同様、同窓会では学園の記念事業遂行にあたり、積極的に協力してまいります。私たちが取り巻く社会環境は厳しいものがありますが、ここは母校の発展のため、ご理解、ご協力宜しくお願いします。（百周年実行委員会）